

萬事少く
 序うられとも
 川原へ
 遊べし
 時う
 不徒但白根か
 らハ
 云ふれ
 世に
 多分を
 成す

一
 白服をうつくしとして
 新白を穿て服の符を
 利

一 芝眼の白々眼（柳りみり）とバネ眼と、さる馬の目のつく成り

月の膏白く轆轤リョリョ越こつるたつやくあゝは夜残よのこえれハそこ洗せんハ骨ほねなク
 しゝく露つゆッッ撫なこ又白しろク眼めハ内うち小こ窓曇くもリリてるゆくわがいふいふせせさるこ

日次よ雲も粒うとふわしい頃又雲の芝暇なくして上座紫
 色を多し庭小暇佛あぐりて立ル等ハ夜中融也此見一ノ真

之なる眼也初上書り守く成成思ふに其目の上と目の中と
 同前多かる眼痛ハ拘形小細たらうをむる也

或玩蜂蛛蟻蜻或ハ獸也及具杯コ細ニたる眼痛乃奪ウる可シ也